

補助金対象事業報告書(平成24年度)

法人名	特定非営利活動法人ハウンドツゥーススポーツクラブ (平成 23 年 3 月法人設立)		
事業名	スポーツを通じた次世代育成事業		
事業費	97,000	補助金額	100,000

1 助成対象事業費内訳(実績)

収入		予算額	決算額	決算額内訳
	団体負担金	50,000		
	参加費・資料代等			
	その他の収入	25,000		
	NPO支援基金助成	100,000	97,000	
	計	175,000	97,000	

支出	費目	予算額	決算額	決算額内訳
	報償費	100,000	80,000	プロ指導者@10,000円×4名×2回
	旅費	15,000	9,000	講師打合せ交通費@1,000円×1回 当日交通費@1,000円×4名×2回
	備品費・消耗品費	20,000		
	役務費	30,000		
	使用料・賃借料			
	その他の経費	10,000	8,000	ボランティア実費弁償@2,000円×2名×2回
	計	175,000	97,000	

2 事業の目的・内容

目的	<p>[若者の地域社会への参加促進] スポーツを切り口として、若者世代を中心に仲間づくりを図り、地域活動に参加する仕組みを作ることで、地域の課題を共有し、地域全体で取り組んでいくことのできる人・まちづくりに繋げていく。</p> <p>[障がいがある児童の自立支援] 特別支援学級にプロの指導者と若者世代のボランティアを派遣し、障がいがある児童に体を動かす楽しさを感じてもらおうと共に、チームワークを学ぶことで、目標や夢を持つ心を育て、自立支援を図る。また、一過性のものに終わらせないために、子供達を取り巻く大人にも参加してもらい、指導者養成も兼ねる。</p>
計画内容	<p>以下の過程により、地域の中での仲間づくりを支援し、ボランティアとして地域社会へ参加する仕組みを構築する。</p> <p>1 若者世代を中心に、スポーツ教室や大会の開催等を通して仲間づくり及び交流の輪の拡大を図る。 2 地域のニーズや課題、情報を共有する。特別支援学級に希望調査を実施。 3 スポーツによってできた仲間を、特別支援学級のボランティアスタッフや指導者としてコーディネート。 4 より多くの人が集まり地域の活性化に繋がるよう、活動の情報を発信。</p>

3 事業の実施状況

事業計画時(予定)	事業実施時
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全5回実施予定 ・対象者：特別支援学級の児童 ・実施場所：区立小学校(希望があった学校) ・授業の中もしくは、土・日曜日に実施 ・予定種目：サッカー、フットサル、ダンス、体操、卓球 など希望に応じて実施 ・一過性のものに終わらせないために、子供達を取り巻く大人にも参加してもらい、指導者養成も兼ねる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・全2回実施 ・対象者：特別支援学級の児童22名 ・実施場所：済美小学校 ・体育の授業として実施 ・種目：サッカー ・特別支援学級の教師にも指導に加わってもらった。 ・ボランティア指導者：各回2名参加

4 実施事業の効果・成果

事業計画時の「期待される効果」	事業実施後の「実際の効果・成果」
効果・成果	<p>地域団体等の後継者、担い手不足と共に、地域と関わりの少ない若者世代の無関心により、世代間ギャップが生まれている中で、若者世代を事業に取り込み、地域社会とコーディネートすることで、世代間交流を図ることができ、地域の担い手の次世代育成が期待できる。スポーツ事業をきっかけとしてボランティアを取り込むため、理念を共有する人を継続して増やし、地域にコーディネートすることができる。それにより、持続的発展が可能な地域コミュニティの醸成に寄与することができる。</p> <p>また、障がいがある児童の自立支援を通し、障がいについての理解も進み、誰もが住みやすいまちづくりへと繋がる。</p>
	<p>事業にはボランティアとして、20代の方の参加もあり、地域と関わりが少なく、関心も希薄になりがちな若者世代が地域に関心を持つきっかけを作ることができた。</p> <p>また、実施した特別支援学級の教師からは、子供達が楽しんで身体を動かすことができたことと好評を得た。子供を取り巻く大人も一緒に参加し、プロの指導者と共に指導に当たることで、一過性のものに終わらせない工夫もできた。</p>

5 自己評価

自己評価 1	事業は当初の予定どおり実施できましたか <input type="checkbox"/> できた <input checked="" type="checkbox"/> 概ねできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> ほとんどできなかった
	実施回数は予定と比べ減少したが、希望があった学校に対し、詳細な打ち合わせを行い、需要に応じた種目、回数を実施することができた。また、若い世代に対し、事業への参加を促すことができ、地域との接点を持ってもらうことができた。
自己評価 2	当初に想定していた「期待される効果」をあげることができましたか <input checked="" type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> 概ねできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> ほとんどできなかった
	スポーツ事業をきっかけとして、ボランティアとして地域へコーディネートすることにより、若い世代が地域に関心を持つきっかけづくりを行うことができた。参加したボランティアの方からは、普段できない経験ができ、自分たちも楽しく、勉強になったとの声が多くあった。 また、特別支援学級の生徒達がとても楽しそうに身体を動かしており、教師からも来年度も実施したいとの要望をいただいた。
自己評価 3	今回行った事業を通して、理解者や支援者は広がりましたか <input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> 広がらなかった
	今回の活動も含め、当団体の活動を広く周知していくことで、今後も理解者や支援者が増えることが期待できる。企業に支援を呼びかけたところ、理解を得られ、活動の発展のための寄付が決定した。

6 今後の課題と活動について

今後の課題と活動	<p>教育機関に団体や活動への理解を得るためには、継続した活動により、信頼関係を築く必要がある。</p> <p>また、団体間や種目間のネットワークの構築においても、一過性の事業では困難であり、地域の需要を絶えず聞きながら、理念を共有できる団体を広げていくことが求められる。</p> <p>同時に、自立して活動を継続するためには資金も必要であり、今後とも情報発信をしながら、地域の企業や地縁団体も含めて、広く連携、協力を求めていく。</p>
----------	---

7 普及啓発活動について

普及活動	NPO支援基金のロゴが入ったチラシを特別支援学級のある学校へ配布。
------	-----------------------------------

8 活動状況について

